

# 研究開発のシステム改革 に向けた取組み

(中間答申第4章を踏まえた取組み)

【続報】

平成26年4月11日  
事務局

# 研究開発のシステム改革に向けた取組み (中間答申第4章関係 抜粋)

## 1 挑戦する人材の発掘、育成

- ①起業家・キャピタリスト育成プログラム開発事業
- ②アントレプレナー・シンポジウム
- ③総務省審議会、研究会へのベンチャー企業参加促進
- ④独創的な人材のエンカレッジ
- ⑤ICTベンチャーの育成

### 【主な対応の現状】

- 総務省の「情報通信技術の研究開発の評価に関する会合」に、アウトカム目標の設定やその達成に向けた取組等についての評価を行う構成員(ベンチャー企業やキャピタリスト等)の参加。
- 競争的資金(SCOPE)の「若手ICT研究者等育成型プログラム」のフェーズⅠの中で、平成26年度から「独創的な人向け特別枠」を設定予定。 → **別紙1**
- 研究開発の成果発表会において、ベンチャー起業家やベンチャーキャピタル等を交えたパネルディスカッションを実施。
- 起業家・キャピタリスト育成プログラム開発事業やICTベンチャー育成にかかる新規事業(平成26年度予算施策)は認められず。

## 2 挑戦する活動への支援

- ①研究者を応援するチームの構築
- ②コンセプト実証(事業化)の支援

## 3 競争的資金制度活用による技術の確立及び実用化の促進

### 【主な対応の現状】

- 平成26年度予算案において、新規事業として、ビジネスモデル実証のための常時応募可能な補助金として、「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」を計上(5.0億円)。研究開発実施者とそれを支援する専門機関とが共同でビジネスモデル実証フェーズに取り組めるよう、双方を補助。 → **別紙2**
- SCOPEフェーズⅡについては、国の支弁する費用の中で、専門家からのアドバイスを受けるための費用を支弁可能とするよう検討中。

# 「 独創的な人向け特別枠」の新設

# 独創的な人向け特別枠(仮称) 概要

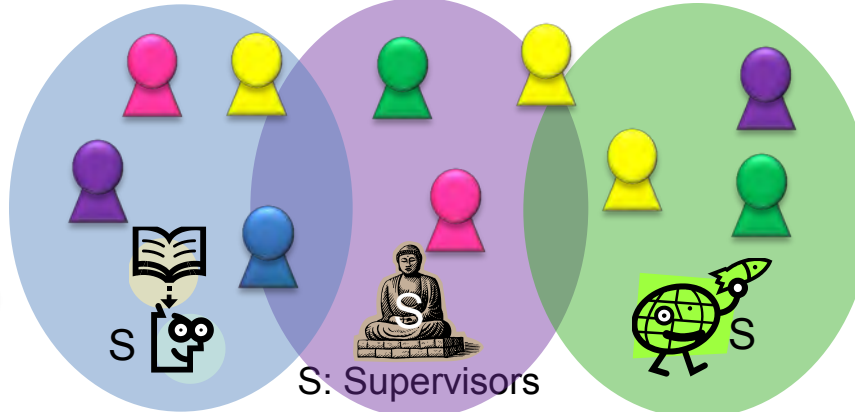


世界的に予測のつかないICT分野において、破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外なリスクの高い課題に挑戦しようとする独創的な人を支援。閉塞感を打破し、異色多様性を拓く。

## 公募



## 独創的な人



クラウドネットワーク環境などバーチャル研究室環境の整備、プログラムでの宣伝代行、外国著名講師によるサマースクールや学会イベント等の環境を構築。

## ゴール

**Ambitious  
Technical  
Goals**

## 評価

- これまで獏としていた実現性(成功)への道筋への輪郭が明確になったかどうか。(低い評価=あいまいなままである課題)
- 失敗により道筋がたてられ方向性が明確になった場合は「高評価」
- 失敗例の共有をプログラムで実現。

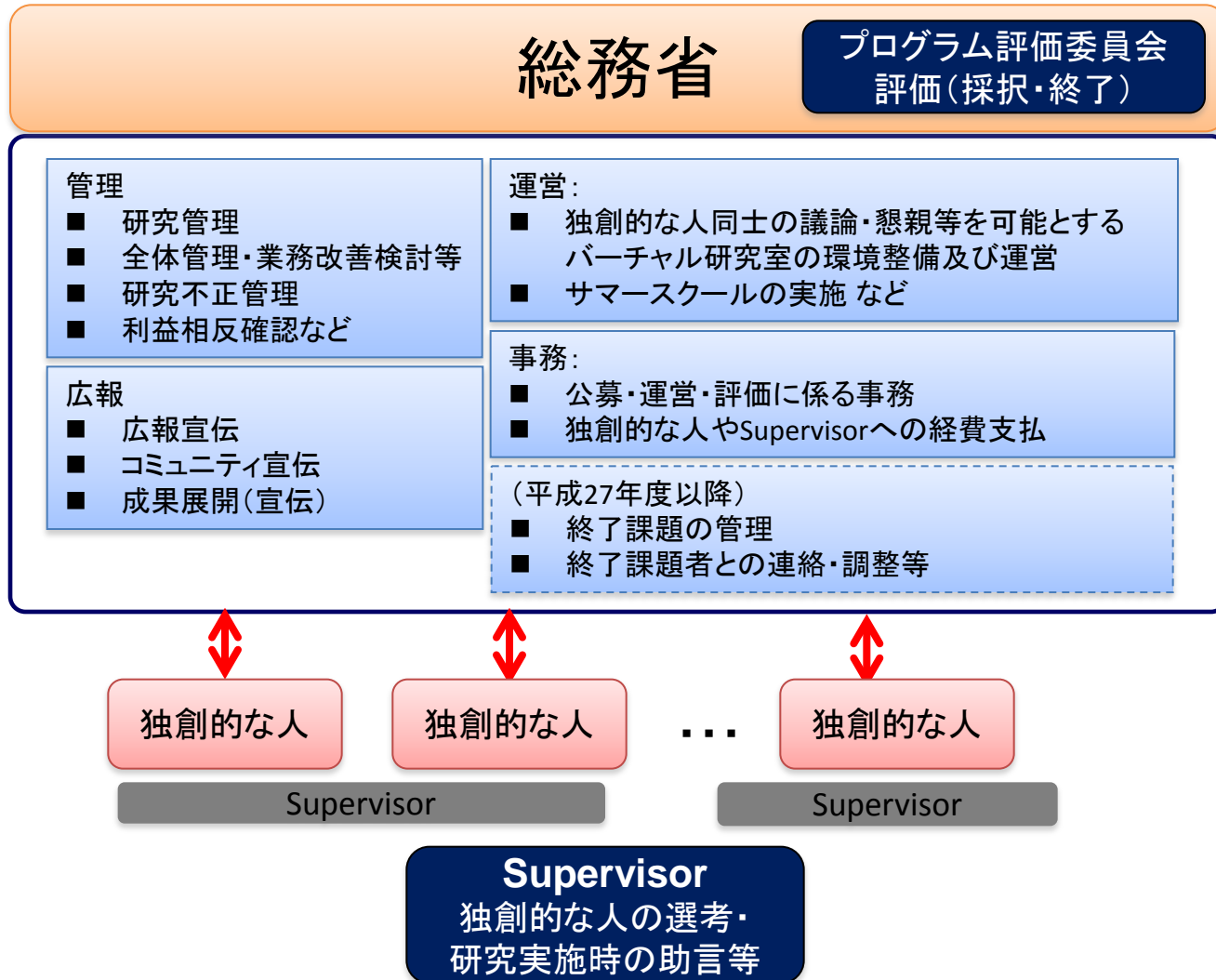
「innovateしていると間違えることもある。一番良いのはそれをすみやかに理解し「改善」と共に次のinnovationsを進めることだ。」 -スティーブ・ジョブズ Sometimes when you innovate, you make mistakes. It is best to admit them quickly, and get on with improving your other innovations. -Steve Jobs

- ◆対象者: 独創的なアイデアを持つ個人 義務教育修了者
- ◆研究費: 300万円(上限)+間接経費
- ◆公募開始: 2014年6月(予定)
- ◆期間: 1年間(繰返し応募可)
- ◆採択件数: 10件程度(想定)
- ◆評価: 絶対評価。

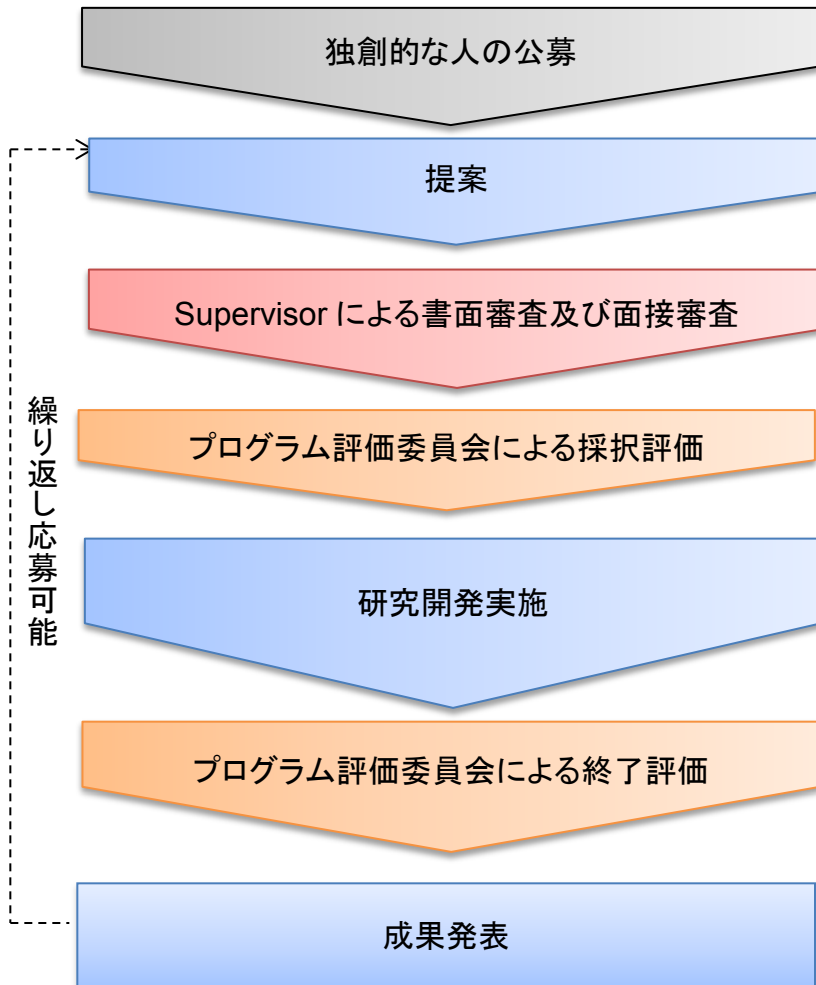
# 実施体制（案）



- 総務省は研究開発管理業務等を外部機関へ委託。
- 委託先は、独創的な人の研究管理、事業運営等、本事業の管理・運営等に係る業務を実施。



# 事業の主な流れ(案)



- 総務省は、「大いなる可能性がある奇想天外なリスクの高い課題へ挑戦しようとする独創的な人」を公募。
- Supervisor は、書面審査及び面接審査により、独創的な人を選考。
- プログラム評価委員会は、Supervisorによる選考理由を踏まえ、独創的な人を採択。
- 独創的な人は、バーチャル研究室などの環境を活用するとともに、Supervisorによる助言等を受け、研究開発を実施。
- プログラム評価委員会による終了評価。
- 独創的な人は、それまでの成果(失敗を含む)を踏まえ、目標設定やアプローチを改善し、再挑戦することが可能。

# 今後のスケジュール(案)



	3月	4月	5月	6月	...
関連会合、 広報・周知イ ベント等		4/11 イノベーション 創出委員会 ★			
				 公募等説明会(例:総通局説明会、関連団体イベント他)	
独創的な人 向け特別枠				外部機関契約 ★	
		 外部機関の公募			
				 独創的な人の公募	
					 採択後、研究開発を実施 (1年)

# 「ビジネスモデル実証フェーズ」の新設

平成26年度新規施策

「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」



# ICTイノベーション創出チャレンジプログラム（仮称）

- ICT分野における我が国発のイノベーションを創出するため、ベンチャー企業や大学等による新技術を用いた挑戦に対し、「死の谷」を乗り越えるための常時応募可能な支援を行う。
- 平成26年度予算額：5億円（新規予算）

## ●背景：ICT成長戦略会議及び情報通信審議会イノベーション創出委員会

「イノベーション創出実現に向けた情報通信技術政策の在り方について」中間答申（平成25年7月25日）

### 4 国による具体的な取り組み方策

今後、我が国がフロントランナーとして、破壊的イノベーション創出に取り組んでいくためには、国として以下のような取組について検討することが必要である。

#### 4. 1. 2 挑戦する活動への支援②コンセプト実証（事業化）の支援

競争的資金の対象に、新技術を用いた事業化のビジネスモデル実証を加えることとする。具体的には、SCOPEに、プロトタイプ作成及びビジネスモデル検証を行う「フェーズⅢ」（ビジネスモデル実証フェーズ）を新たに創設する。

## ●具体的な取組内容

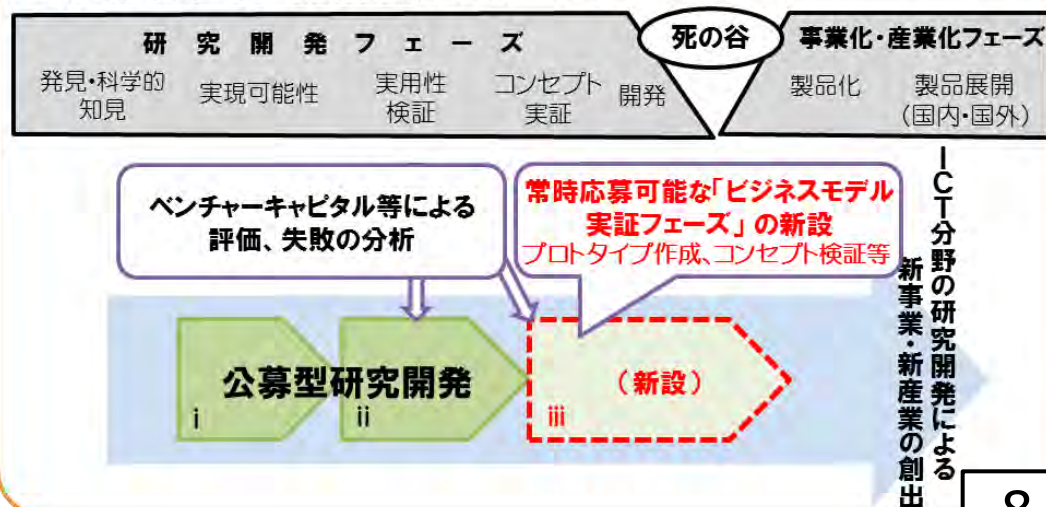
次の特徴を持つ研究開発支援スキーム（補助金）を平成26年度より新たに創設。

- ・常時応募が可能な公募制度
- ・事業化の専門家等によるサポート 等

## ●目指す成果

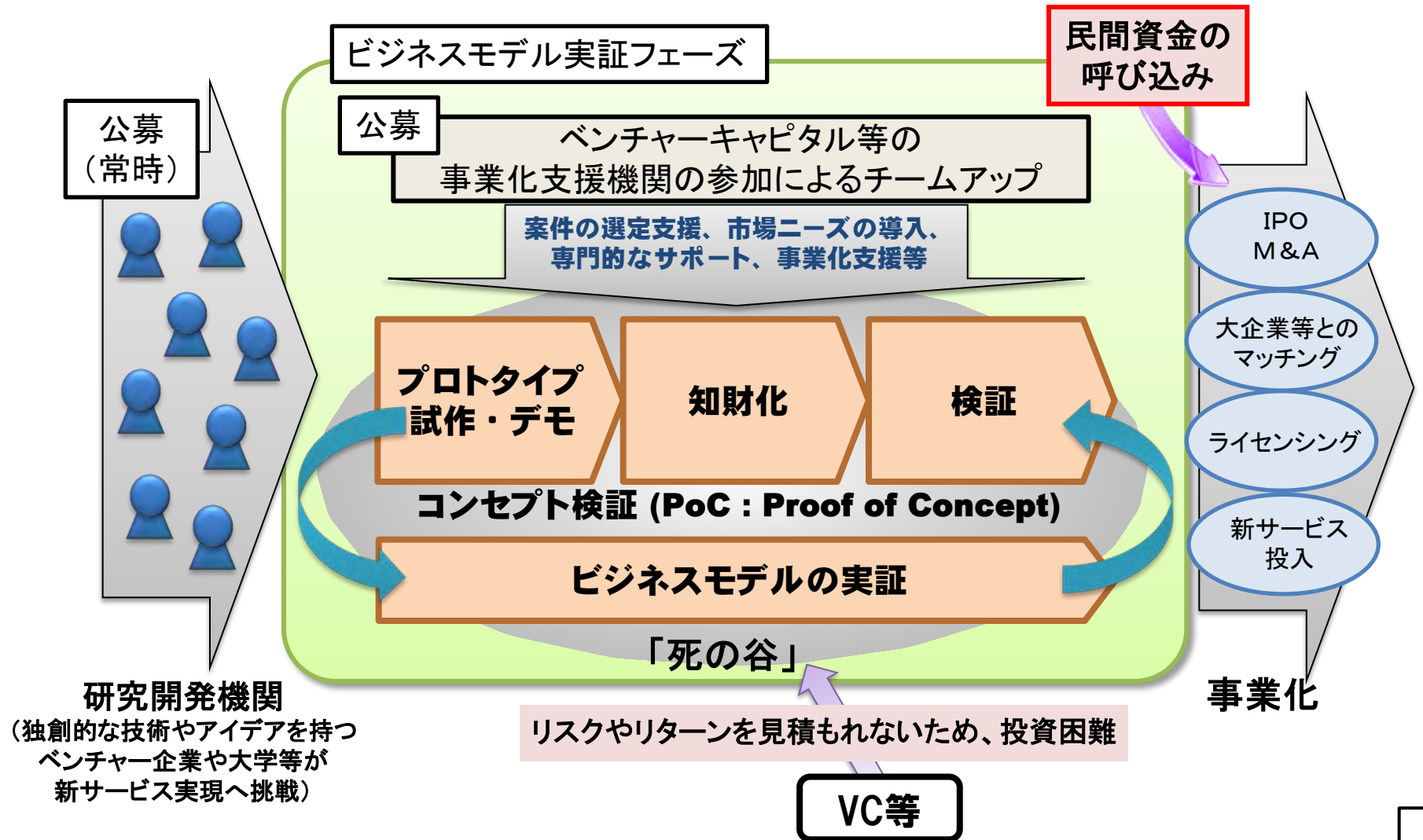
- 我が国の技術力・アイデアを活かした新産業・新サービスの創造
- 民間資金（リスクマネー）の活性化を誘発し、ICT分野におけるエコシステムの形成を促進
- 我が国が「世界で最もイノベーションに適した国」となることに貢献

### 【常時応募が可能な公募制度のイメージ】

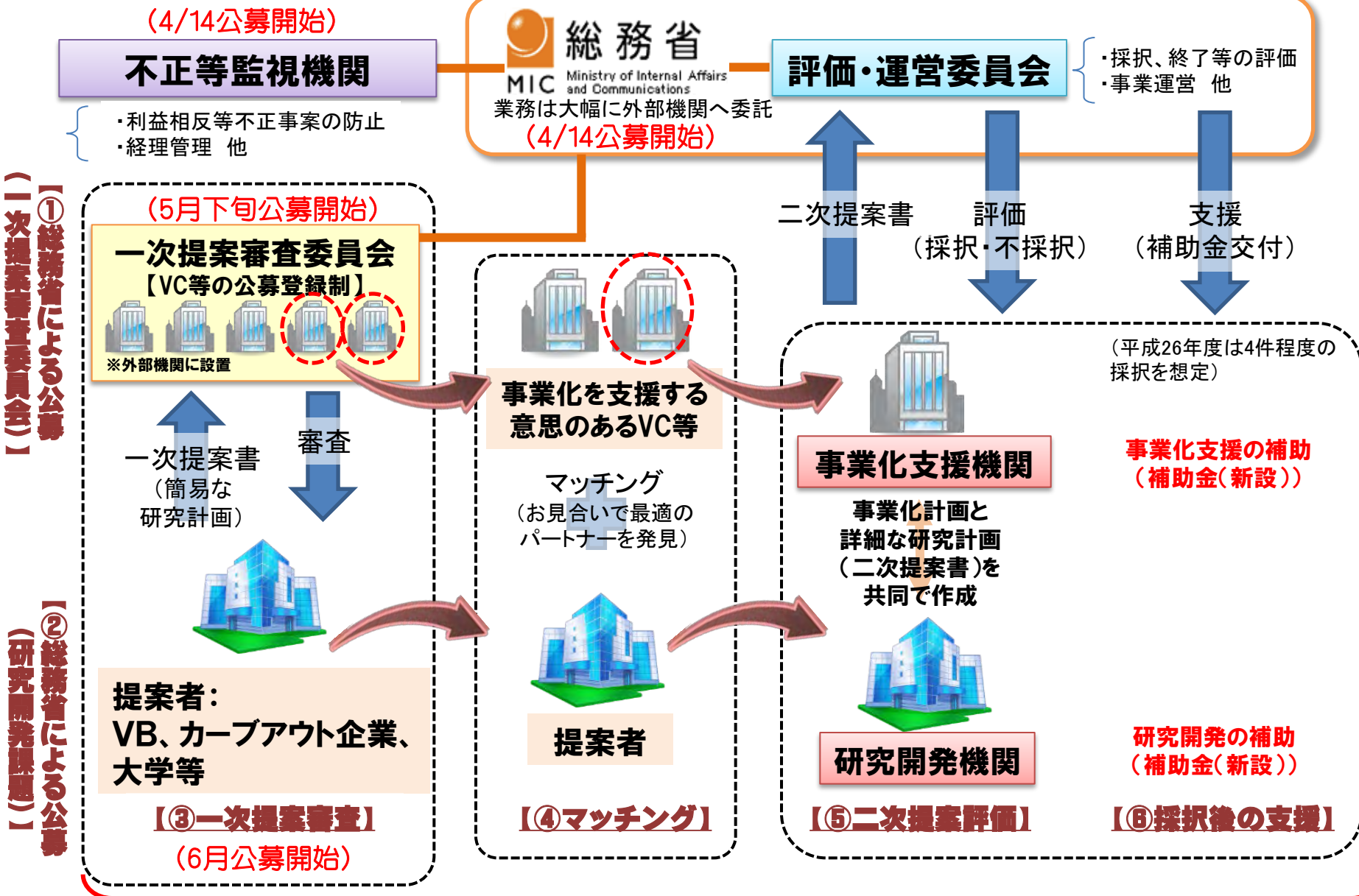


# 事業の概要

ICT分野における我が国発のイノベーションを創出するため、民間企業や大学等による技術成果の具現化を目指す研究開発プロジェクトを支援し、情報通信技術の展開を推進する。



# 実施体制



常時応募可能

# 支援概要 (先進的情報通信技術実用化支援事業費補助金)

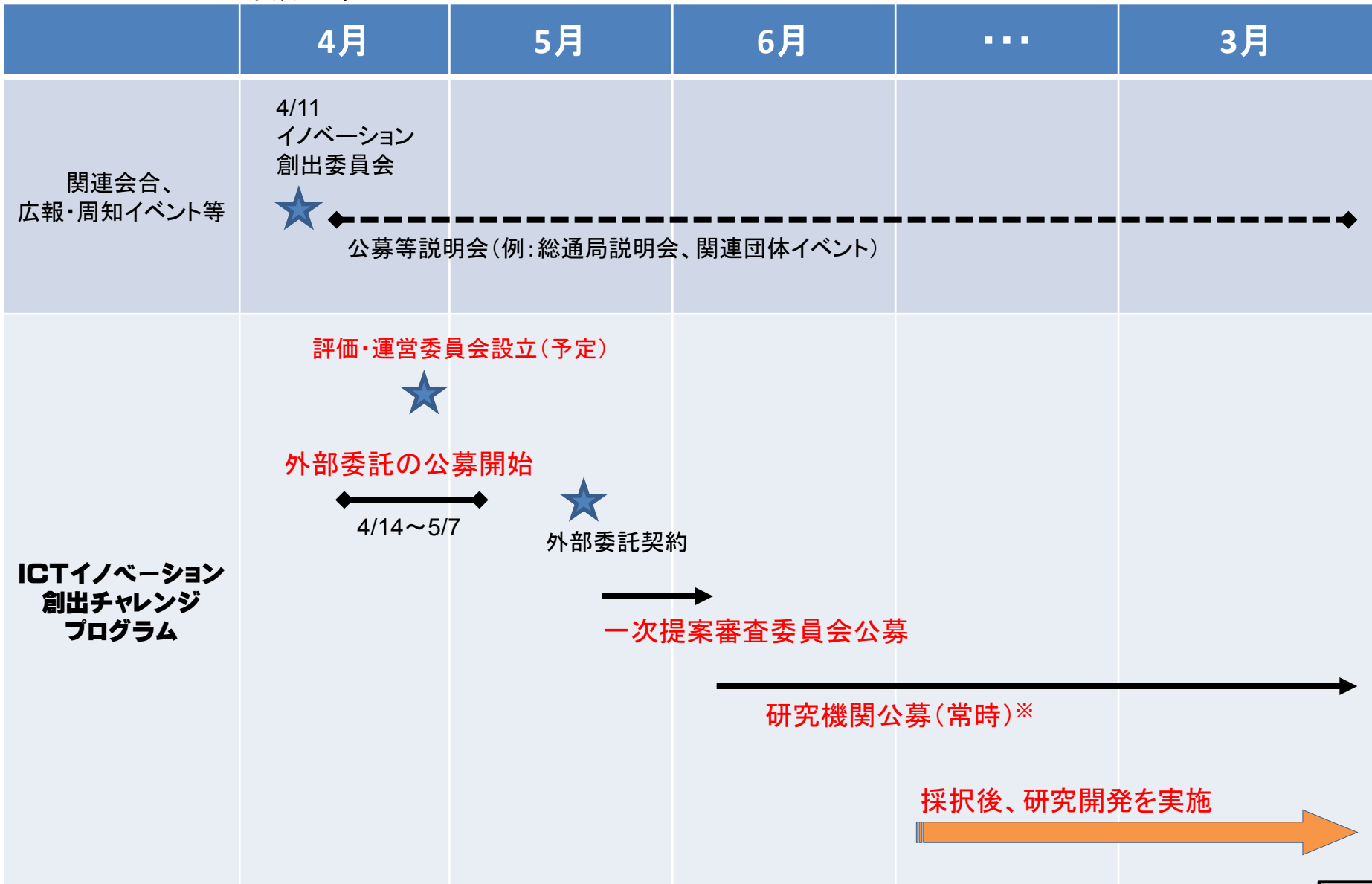
	研究開発機関 (ベンチャー企業、大学等)	事業化支援機関 (ベンチャーキャピタル等)
応募条件	ICT分野において独創的な技術、アイデア (技術的な実現性は検証済みのもの) を持ち、その具現化により新たな事業を開始しようとする事業者	有望な技術・アイデアの選定、市場ニーズの導入等、ビジネスモデルの実証および事業化支援を行う事業者
支援内容	ビジネスモデル実証フェーズに取り組む研究開発、事業育成及びそれらの活動を通じた経験・知見の蓄積、人材育成、人材資源等の活用を図るための経費の一部	研究開発機関と共同で、民間資金の誘引等による市場や出口を見据えたビジネスモデル実証フェーズに取り組む研究開発や事業育成を図るための経費の一部
支援額	補助額 : 1億円以内 (間接経費 (直接経費の30%以内) 含む) 補助率 : 2/3以内 (ベンチャー企業等) 10/10以内 (大学等)	補助額 : 1000万円以内※1 (一般管理経費 (直接経費の10%以内) 含む) 補助率 : 2/3以内
公募期間	平成26年6月 (予定) より <b>常時応募可能</b> ※2	平成26年5月下旬 (予定) より

※1 共同提案書作成経費については別途一部支援を行う。

※2 平成26年度中。但し、支援額が予算の上限に達するまで。

# 今後のスケジュール(想定)

平成26年



※予算額上限の範囲内